様式第２号（第３条関係）

行政視察等報告書

平成２９年５月１７日

米子市議会議長　様

会派名　信風
代表者氏名　中田利幸
提出者氏名　稲田　清

下記のとおり報告します。

記

項　目	□現地調査　☑行政視察　□要請・陳情活動 □研修会への参加　□会議への参加
参加者	中田利幸、村井　正、安達卓是、稲田　清、伊藤ひろえ
期　日	平成２９年５月９日から平成２９年５月１２日まで

〔概　要〕（年月日・場所・内容）

平成２９年５月　９日　移動日

平成２９年５月１０日　留萌市

(1)　農業と福祉の連携による６次産業化支援事業について

(2)　るもい健康の駅の取り組みについて

平成２９年５月１１日　恵庭市

読書のまちづくり（人とまちを育む読書条例・まちじゅう図書館等）について

平成２９年５月１２日　千歳市

千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について

〔所　感〕

別紙のとおり

経　費	旅費総額　573,944 円

行政視察行程（会派：信風）

月　日	行　　程	宿　泊　地
5／9 （火）	17:00　18:30　19:00　20:35　21:04　21:44 米子空港 ＝＝＝＝＝＝ 羽田空港 ＝＝＝＝＝＝ 新千歳空港 ＝＝＝＝＝＝ 札幌駅 ANA388　ANA77　JR 快速エアポート 211 号	ホテルグレイスリー札幌 TEL 011-251-3211
5／10 （水）	7:20　9:47　約 20 分 札幌駅前 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 幌糠 ―――――― ［現地］幌糠農業・農村支援センター 高速バス・高速るもい号・留萌駅前行　送迎	ニューホワイトハウス TEL 0164-42-8484
	留萌市行政視察（現地視察） 午前１０時３０分ごろから１時間３０分程度　担当：サトウ様　電話：0164-42-1907 【調査項目】農業と福祉の連携による６次産業化支援事業について	
	約 20 分 ［現地］幌糠農業・農村支援センター ―――――― ［現地］るもい健康の駅（留萌市花園町３丁目 1-1） 送迎	
	留萌市行政視察（現地視察） 午後１時３０分ごろから２時間程度　担当：サトウ様　電話：0164-42-1907 【調査項目】るもい健康の駅の取り組みについて	
	［現地］るもい健康の駅 ―――――― ホテル 送迎	
5／11 （木）	9:31　10:27　10:49　11:55　12:05　12:29　約 10 分 留萌駅 ＝＝＝＝＝＝ 深川駅 ＝＝＝＝＝＝ 札幌駅 ＝＝＝＝＝＝ 恵庭駅 ―――――― 恵庭市立図書館 JR 留萌本線　JR 特急ライラック 18 号　JR 快速エアポート 120 号　タクシー① 深川行　札幌行　新千歳空港行	えにわステーションホテル TEL 0123-34-2400
	恵庭市行政視察 午後２時００分ごろから１時間３０分程度　担当：セキ様　電話：0123-33-3131（内線 3211） 【調査項目】読書のまちづくり（人とまちを育む読書条例・まちじゅう図書館等）について	
	恵庭市立図書館 ―――――― ホテル 送迎	
5／12 （金）	9:29　9:34　約 7 分 恵庭駅 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 千歳駅 ―――――― ［現地］千歳市防災学習交流センター「そなえーる」 JR 快速エアポート 90 号・新千歳空港行　タクシー②　（住所：千歳市北信濃 631－11）	
	千歳市行政視察（現地視察） 午前１０時００分ごろから２時間程度　担当：アオヤマ様　電話：0123-24-0791 【調査項目】千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について	
	約 7 分　12:35　12:42　16:30　18:05　18:30　19:50 そなえーる ―――――― 千歳駅 ＝＝＝＝＝＝ 新千歳空港 ＝＝＝＝＝＝ 羽田空港 ＝＝＝＝＝＝ 米子空港 タクシー③　JR 快速エアポート 144 号・新千歳空港行　ANA70　ANA387	

信風会派行政視察

北海道留萌市・恵庭市・千歳市

旅費計算表

平成29年5月9日　～　平成29年5月12日（3泊4日）

月　日	区間	鉄道路線名	区間キロ数	目的地までのキロ数	運賃	グリーン	急行料金 特別	急行料金 新幹線	日当 議員1,500円 随行1,100円	宿泊料 甲 14,800円 10,900円	宿泊料 乙 13,300円 9,800円
5/9	米子空港 ～ 羽田空港	ANA							1,500		9,500
(火)	～ 新千歳空港	ANA			31,480	乗継特割					
	～ 札　幌	JR			1,070						
5/10	札幌駅前 ～ 留萌駅前	高速バス							1,500		8,020
(水)											
5/11	留　萌 ～ 深　川	JR							1,500		9,200
(木)	～ 札　幌	JR					2,320				
	～ 恵　庭	JR									
	～ 現　地	タクシー①									
5/12	恵　庭 ～ 千　歳	JR							1,500		
(金)	～ 現　地	タクシー②									
	現　地 ～ 千　歳	タクシー③									
	～ 新千歳空港	JR			3,810						
	～ 羽田空港	ANA									
	～ 米子空港	ANA			39,080	特定便乗継割引					
計	議員旅費			110,480	75,440	0	2,320	0	6,000	0	26,720
	随行旅費			0							

出　席　議　員　中田、村井、安達、稲田、伊藤

議員旅費	110,480 ×5名＝	552,400	円
高速バス（札幌駅前－留萌駅前）		10,710	円　※2,370円（1枚）＋8,340円（4枚回数券）
タクシー①	1,190円＋1,190円＝	2,380	円
タクシー②	1,120円＋1,040円＝	2,160	円
タクシー③	960円＋960円＝	1,920	円
お土産代		4,374	円
旅費総額		573,944	円

留萌市
農業と福祉の連携よる６次産業化支援事業

地域や気候の概要

・地域の気候によると以前は、寒冷地であったが気候が温暖化になり「米」づくりがさかんとなってきた。当市は、道内で３大おいしさ産地である。
・平成３０年産米の政府交付金が打ち切りとなる。➡麦、大豆（他の作物）への変換となる現状がある。
・水産加工業について、昭和３０年代が最大であった数の子の加工技術が現在も高いまま、推移している。
・最近では、海流（海温・水温）の変化もあり、海流魚が激変した。以前のような魚種は多く見込まれないが、山が海岸線に迫り、良質の水が確保でき魚が育ちやすい地域である。また、野菜への転換（米→野菜）を図る。
・年間の気候を見れば、年間を通して半年間は積雪（多いときは２ｍ５０ｃｍ位）もあり寒冷地である。
・大根農家を取り込み、８月の盆ごろに育苗し、寒さに向かって甘さを蓄える習性を活かす。
・生の大根では重量が伴うためコスト高であり、高齢農家の増加となり、乾燥野菜に着眼する。

背景、経過

◎留萌市農水産物乾燥加工試験事業の実施：平成２４年
小さなロットでこなせる地場の農水産物は、資源量も少なく加工が進んでいない状況である。新たな付加価値を付け、販路開拓を図り常温販売ができる商品開発が必要となる。
・低ランニングコストによる、食味や発色、栄養成分を損なわない減圧平衡発熱乾燥法に着目し、その技術を用いた乾燥機を導入。地場の農水産物を対象に乾燥加工試験を実施する。　　：総務省「過疎地域等自立活性化推進交付金」の活用。
◎乾燥野菜による高齢農家と障がい者のスモールビジネス支援：平成２５年
・地域の大根を食材に農家、障がい者福祉サービス事業所、ＪＡ南るもい、留萌市などで『るもい農業「人」と「食」の交流推進協議会』を設置。（商品名）「るもい産てぎり干し大根」を試作製造、商品化、障がい者の就労支援の取り組み。

↓

◎取り組み拡大し、野菜生産の振興、障がい者就労等の支援、幌糠地区の活性化（廃校利活用）、留萌生まれの農産加工品の生産拠点を整備する。・・・・平成２６年
・設置主体：留萌市（農林水産課）、設置場所：旧幌糠中学校、事業費：約 27,000 千円、設置機器：減圧低温乾燥機（２台）など
○農業と福祉の連携による６次産業化事業の目的
①留萌市でで生産される農産物の付加価値向上と農業生産の振興
②障がい福祉サービス事業所の利用者の就労や活動支援
③ものづくりや人的交流などを通じた幌糠地区の活性化

☆　農業を核とした産業創出プロジェクト【地方創生（先行型）】
①新技術（水耕・養液）栽培試験事業‥‥幌糠農業・農村支援センター（旧廃校校舎の利用）実験ハウス（水耕栽培）を設置し、新たな担い手と新規就農者の冬場の就労機会の確保
②資源循環型エネルギーの活用のための調査、研究事業
豪雪・寒冷地域における地域のバイオマス資源を活用したエネルギーの製造、供給による冬

期の燃焼試験

近畿大学（研究機関）と留萌地域にあるバイオマス資源（もみ殻、間伐材など）を活用し、エネルギーの製造、燃焼試験

③農産加工品等商品開発・販路促進事業

廃校を活用した地方創生プロジェクトの一体的推進(新たな人材の集積、ものづくりの強化)

◎新たな農業技術を活用した栽培試験の実施【平成２７年地方創生先行型】

２棟の農業用実験ハウスを設置し、＜実際に栽培し生産する施設＞と＜研究する施設＞を同時に実行する。

管内では、初めての水耕野菜を栽培し、通年栽培に挑戦している。

「るもいリーフ」、「ミニチゲンサイ」、「ベビーリーフ」、「ミニホワイトセロリ」などを現在、栽培着手する。

所　感

・農林水産課の説明について、当市の寒冷の気候や厳しい時代の変化の中で未来志向の着眼でもって現状を見つめつつ、地域の農業と福祉の連携事業の展開、組み立て、計画実行を聞き、日々の事業への意気込みを感じ取ることが出来、たいへん貴重な研修をすることが出来た。

・事業の実績については、これからという部分があるが連携する大学との取り組みや将来見通しを感ずることが出来た。米子市においても、６次産業化や農福連携事業施策の企画立案の一助にしたいと思う。

留萌市行政視察報告
るもい健康の駅の取り組みについて
～健康づくりの出発点～

平成２９年5月１０日（水）１３：３０～

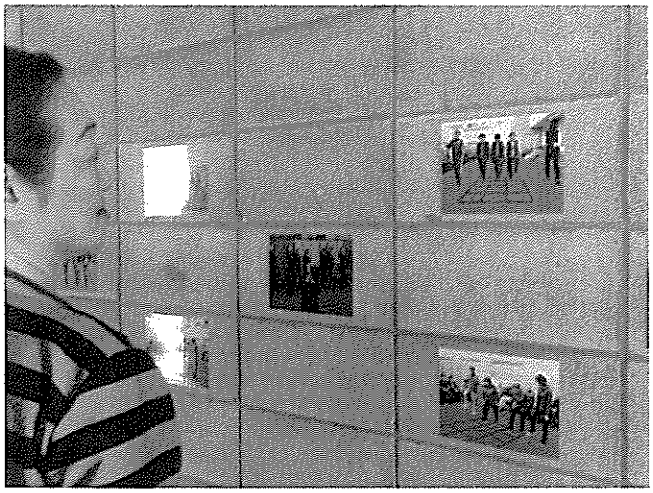
留萌市市民健康部　部長（ｺﾎｰﾄﾋﾟｱ推進室長事務取扱）島田泰美氏
NPO法人　るもいｺﾎｰﾄﾋﾟｱ（るもい健康の駅内）

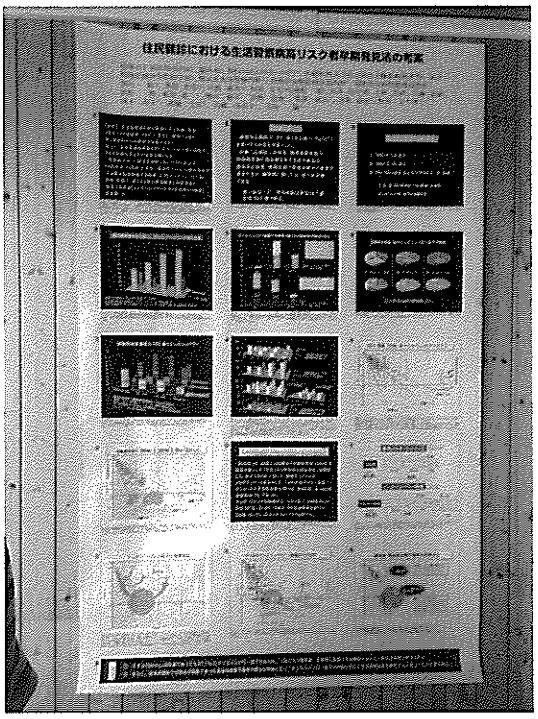
○るもいコホートピア構想について
「予防医学の視点から前向きな医学的研究を行い、健康・長寿のまちを創造する」コホートピア構想は、コホートピア研究コアメンバーを中心に、留萌市民の医学データを調査・研究し、それを市民の健康づくりや医学的な研究に活かしている。
例えば、「目のコホート研究事業」は、40歳以上の留萌市民１７００人を対象に無料で目の検査を行い、その結果、２割弱の市民に目の異常が認められる。早期発見で治療のきっかけとなるなど効果があった。
（独居高齢者対象に実態調査を実施。郵送、電話、訪問し悉皆名簿を作成）

○地域医療実習について
道東では１２年、留萌市では６年の実績がある。留萌市立病院で教育フィールドの受け入れ。具体的に課題を見つけ、まちづくり・人づくりに活かされている。札幌医科大学と留萌市との連携協定が締結されている。

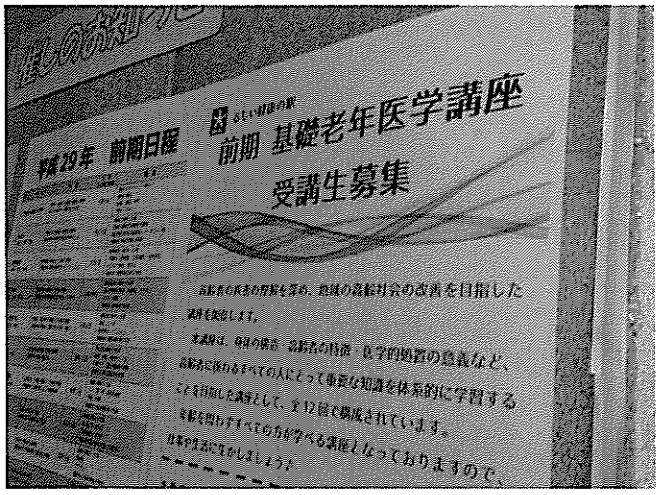
○るもい健康の駅の取り組み
健康の駅は全国で１９駅（健康の駅推進機構 H27.12..1 調べ）。健康の駅は①まちの駅の要件（トイレ、案内、まちの情報、看板）を満たしていること②医学的な健康推進と健康増進を行うこと③医学的な説明と情報を伝えること④医療と自治体の協力が得られることが必要。常駐の介護士・看護師、医師（月に数回）など８名+３名で運営。日々、多くの市民に利用され、不登校・ひきこもりの居場所活動も行われている。

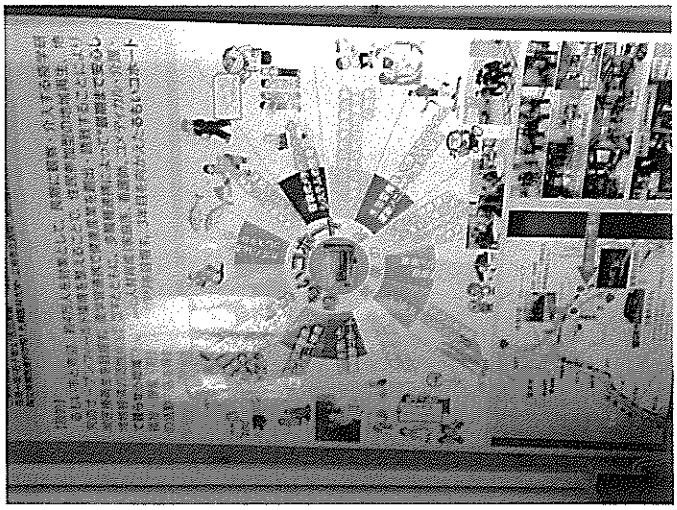
【所感】説明を受けた後、質疑応答。その後、施設見学と簡単な身体測定を受けた。チェックのポイントや加齢とともに気をつけるポイントなど指導を受け、その後の行動が即座に変化した。健康増進を図ることは重要だと皆が感じているが、行動に移すのは難しい。しかし、検診や医学的根拠のある説明を受けると、一人ひとりに行動変容が起こり、まちづくりにも活かされるということが実感できた。有意義な行政視察だった。

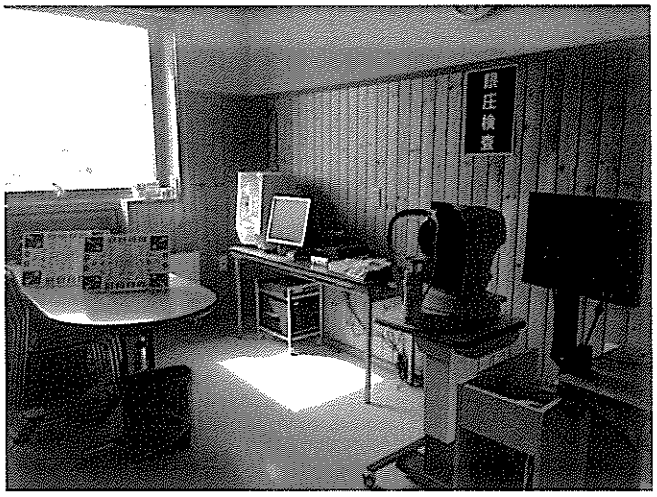




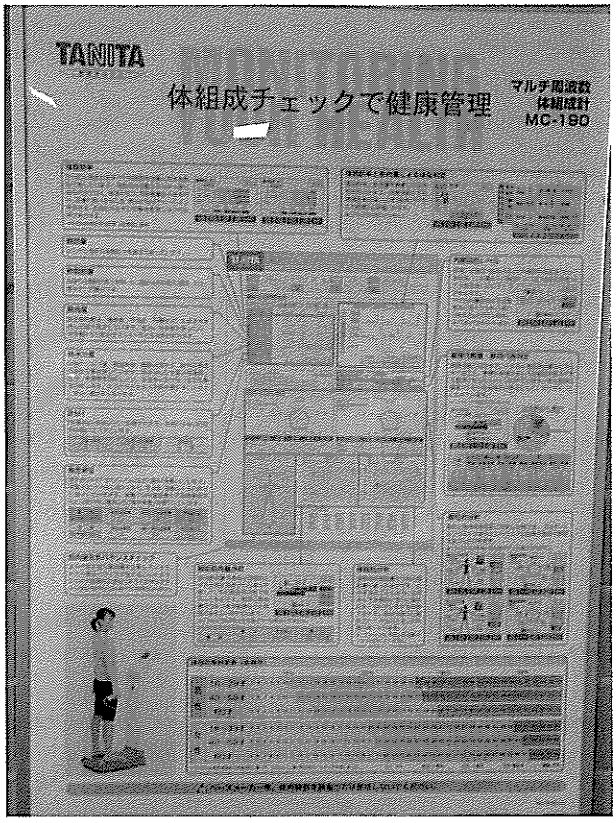
体組成計
体足で測りましょう

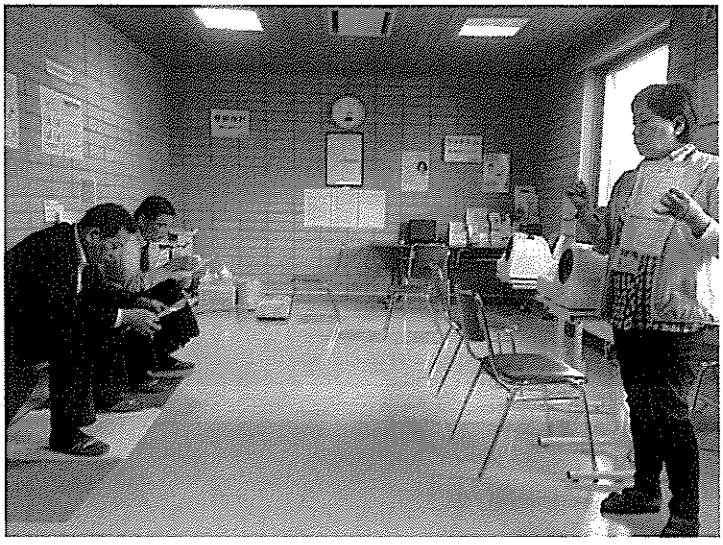

平成29年 前期日程
前期 基礎老年医学講座
受講生募集

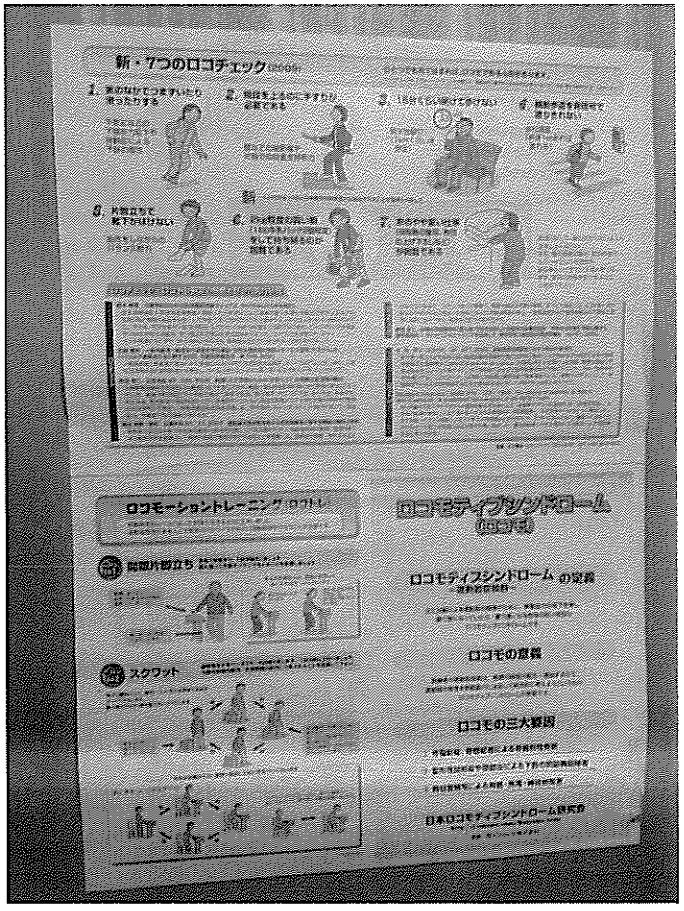


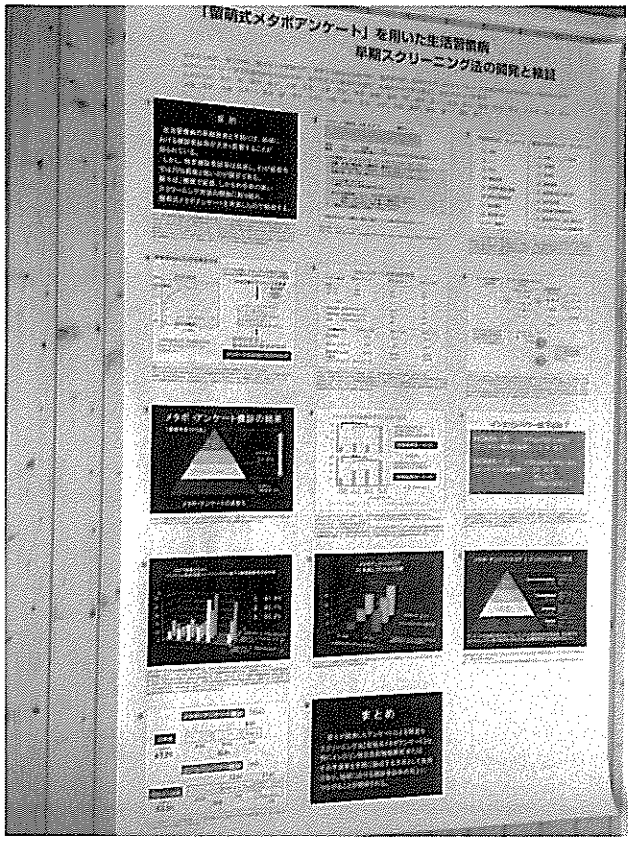

眼圧検査

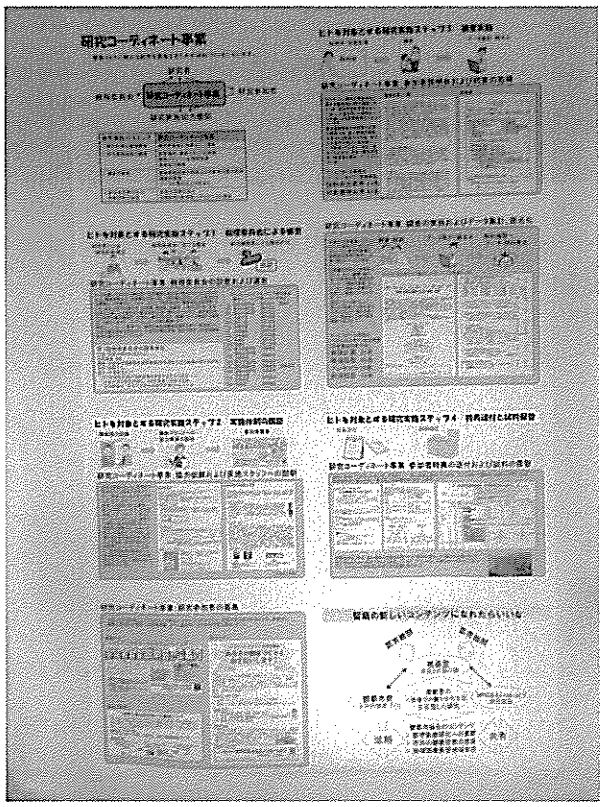
心電図測定器
減塩のコツ


TANITA
体組成チェックで健康管理
マルチ周波数
体組成計
MC-190

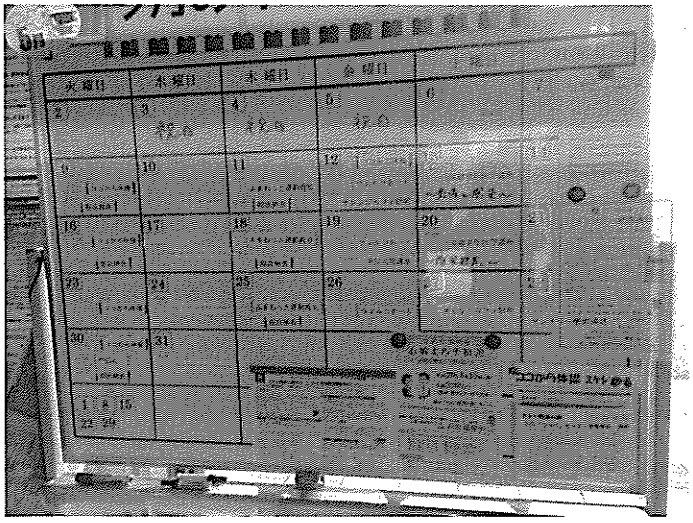


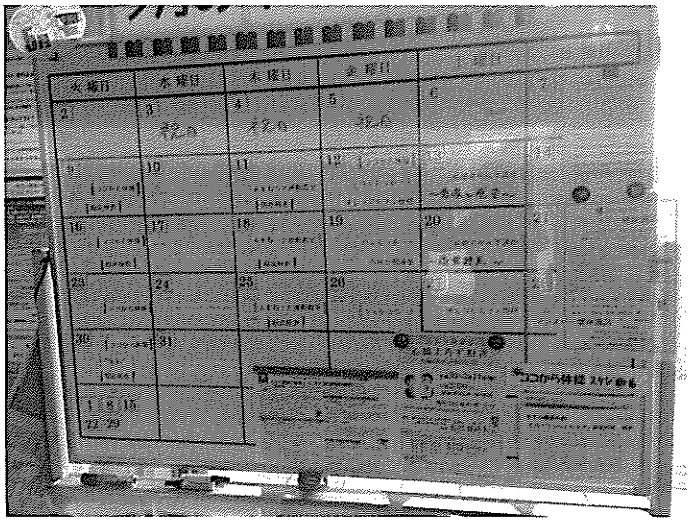

新・7つのロコチェック
ロコモーショントレーニング
ロコモティブシンドローム
ロコモティブシンドローム の定義
ロコモの定義
ロコモの三大要因
日本ロコモティブシンドローム研究会

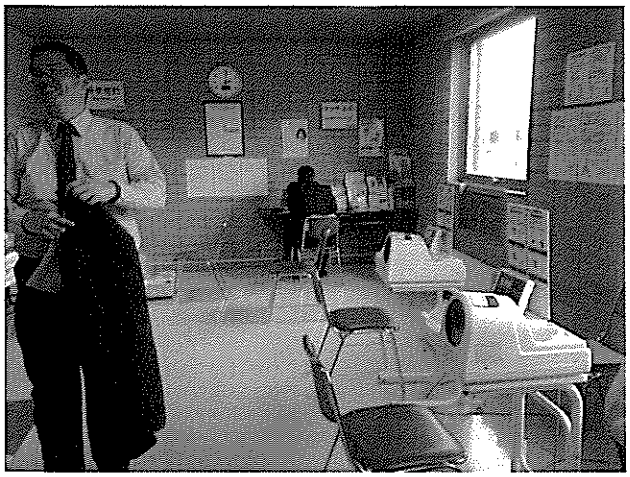

「簡易式メタボアンケート」を用いた生活習慣病
早期スクリーニング法の開発と検証
まとめ

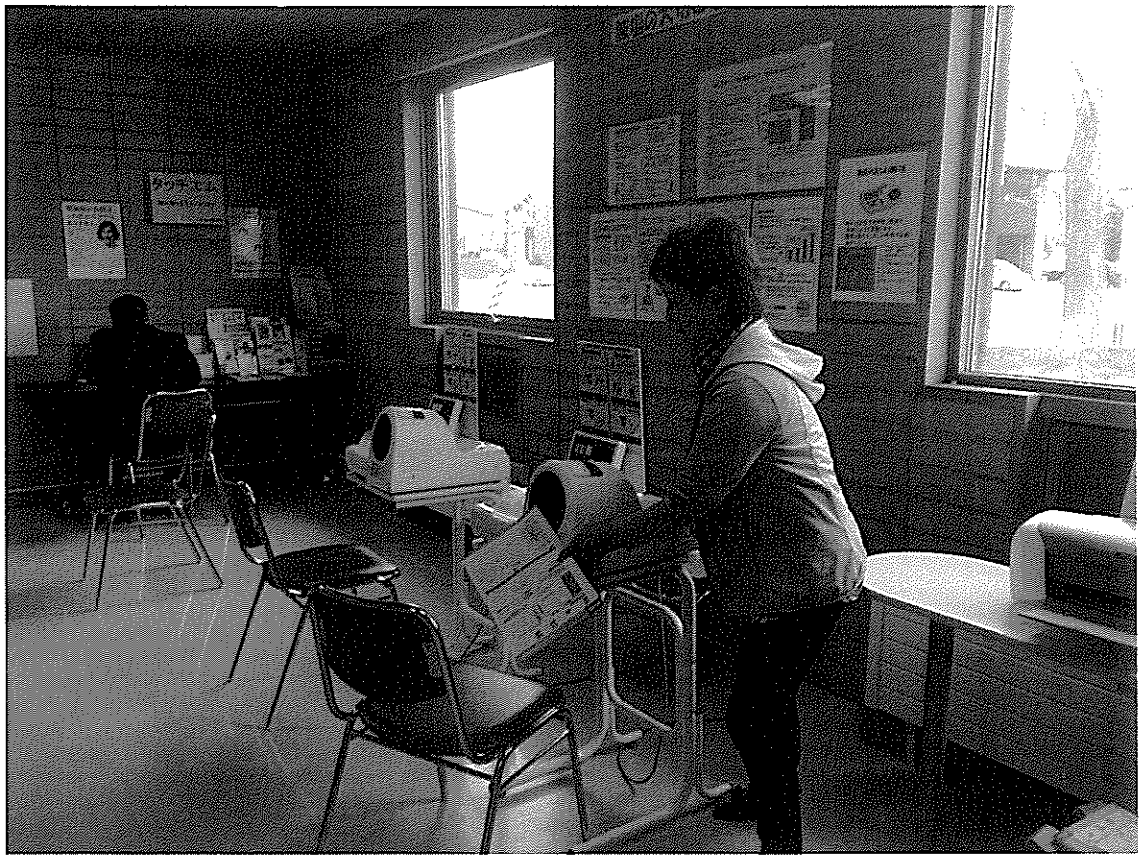

現代コーディネート事業

まなぶ
しらべる









視 察 先：北海道恵庭市
視察日時：平成２９年５月１１日 午後２時より
視察項目：読書のまちづくり（人とまちを育む読書条例・まちじゅう図書館等）について

報　　告：
「本のまち えにわ」としてさまざまな施策に取り組んでいる。主なものとして全国初の取り組みであるブックスタート事業（９または１０箇月児へ絵本の配布）をはじめ、ブックスタートプラス事業（１歳６箇月児への絵本の配布）、マッチングギフト事業（寄付額と同額を市が負担して図書を購入する制度）、図書４４万冊の共有事業（市立図書館と小・中学校の図書室がデータベースにて連携管理されており、配本車が毎日運行）、ブックライン事業（市内にある高校と連携）、まちじゅう図書館（市内の店舗等に個人の蔵書を配置し気軽に立ち寄って本を読んでもらう制度で、本棚の費用は市が負担）、本で婚活（独身者限定で男女各１０名が本について語る会合）、うちどく（家族で同じ本を同時に読む）等が展開されており、平成２５年４月１日には「恵庭市人とまちを育む読書条例」が施行されている。平成２９年４月より、図書館は指定管理制度にて運用されることを機に、従来の「図書課」から「図書推進課」へ組織変更し、４名の職員が上記のような図書推進策に従事している。ここに至るまでにさまざまな問題があったが、その中で「学校の図書館と連携する際に“壁”があった」といういわゆる“行政の縦割”が存在していたが、それを解消し現在に至っているというのが印象的であった。また、同じ職員が２０数年間、同じ部署で勤務し続けることによって計画的に施策が推進できることも同様であった。最後に「我々の目指しているところは、蔵書数や貸出数の多寡ではなく、本が持っている力を最大限発揮して“どこまで、まちづくりができるか”です」と力強く言い切られました。この姿勢は見習うべきであると強く感じたところです。米子市においても図書館と小・中学校の図書室の連携は十分ではなく、今後、さまざまな推進策を講じていく必要があると言えますが、まずは如何に図書が重要であるかを認識することから取り組む必要があると思いました。

千歳市防災学習交流センター「そなえーる」視察報告

この施設に訪問した時、ちょうど小学校の４年生の防災学習の実際を見学させてもらいました。地震が体感できる装置、油火災の実際、煙に巻かれた時の避難方法が体験できるようになっており、児童が学習する様子をみると、体験型学習だということがよくわかり、施設の目的の一端を見ることができました。

千歳市は、石狩平野の南端に位置しており、札幌市や苫小牧市など４市４町に隣接し、札幌市へは快速電車を利用すると30分の近さです。

市域は、東西に細長く冬期間の降雪量は約１メートルと北海道の中では比較的少ない地域の一つです。また、この地域は年間を通じ南北に風が吹<日が多いことから滑走路はすべて南北に延長されています。

施設建設の経緯と目的

千歳市は、自衛隊が市街地の三方を取り囲むような形状で、市街地の縁周部には、装軌車両、主に戦車が頻繁に通行する、延長約 10ｋｍの公道が通っており、沿線住民から騒音振動による被害などが寄せられていたことから、市では、沿線地域の生活環境の改善に努めていましたが、地域の活性化や生活環境の一層の改善が要望されました。

このような状況のなか、平成14年度に防衛施設周辺地域の発展に貢献しようという新たな国の高額補助制度「まちづくり構想策定支援事業」が創設されたことから、市の総合計画で位置づけている、総合的な防災対策の推進や自主防災組織の充実などの観点から、住民要望や住民懇話会での議論を踏まえて防災学習交流施設の整備を行うこととされました。平成17年12月に正式に補助事業として採択をされ、防衛施設と共存した災害に強い安全なまちづくりを進めることとされました。

総事業費は約21億円で、財源内訳については、防衛省所管民生安定事業で実施され、国庫補助率は75%で、残り25%は起債75%、市費25%となっています。

施設の概要

防災学習交流施設は、総面積約8.4ｈａで、Ａゾーンには３階建て延べ面積約2,300㎡の防災学習交流センター「そなえーる」、広さ約 2.4ｈａの防災訓練広場、ロープ訓練塔、防災備蓄倉庫を兼ねた副訓練塔、常設ヘリポート、駐車場などを配置してあります。

Ｂゾーン「学びの広場」は広さ1.1ha、造成に伴う雨水調整池と消火体験や救出体験を通し、自助・共助を学ぶことを目的に設置した広場となっています。

Ｃゾーン「防災の森」は広さ３ｈａで約150人がキャンプ利用できる「野営生活訓練広場」、調整池を兼ねた「多目的広場」湧き水を利用した「河川災害訓練広場」「土のう訓練広場」アスレチック遊具などを設置した「サバイバル訓練広場」のほか管理棟、駐車場を配置し、共同作業が体験できる広場となっています。

事業内容・施設の利用状況

防災意識の向上のため、千歳市総合防災訓練や町内会、自主防災組織等による消火・救出等の防災訓練、救急救命率の向上のための救急講習会、市民を対象とした千歳市民防災講座や町内会、自主防災組織及び事業所等を対象とした防災関係の講座、防災イベントなどを開催されています。

防災学習交流施設の利用状況については、平成26年度44, 399人、平成27年度42, 027人、平成28年度は、39,526人となっています。

視察を終えて、千歳市の基地の事情からこのような事業が取り組まれたことがわかりました。防災意識の向上に積極的に取り組まれていること、自主防災組織結成時には、結成町内会にたいし三十万円相当の防災物資を提供されていることもうかがったところです。積極的な防災対策の検討に役立てる必要を感じたところです。